

- 今年度は以下のスキームで政策評価の取組をスタート
- 来年度からの制度改善に向けた、それぞれのテーマごとの論点については、次頁以降を参照

テーマ	今年度のスキーム
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ①成果を重視した効果的・効率的な都政運営を推進 ②都民への説明責任を徹底
I 評価対象	○施策レベル（見える化改革の事業ユニットにおける施策）
評価実施施策・局	<ul style="list-style-type: none"> ○（見える化改革の）事業ユニット所管局（計21局） ○各局が選定した1ユニットにおける全施策（一部でも可）
II 評価手法	<ul style="list-style-type: none"> ○当年度、施策ごとに、成果指標・目標を設定。原則として定量的なアウトカム指標（設定が困難な場合は、定量的なアウトプット指標も可能） ○翌年度、評価実施（①成果指標の実績を基に施策の進捗状況の把握（各成果指標・施策全体で評語を設定）、②施策の分析、③今後の方向性の提示）
評価主体・外部有識者の関与等	<ul style="list-style-type: none"> ○各局の自己評価 ○外部有識者（政策評価分科会）は①成果指標・目標（当年度）、②自己評価（翌年度）の妥当性に関して意見・助言
III 評価書・情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ○①政策体系シート、②政策評価シート（施策ごとに成果指標・目標、構成する事業、自己評価等を記載） ○評価書は全て公表
IV 既存の制度・仕組みとの関係	○成果指標の約半数以上が各局の行政計画等と重複（東京都の全庁的な実施計画である「実行プラン」とも一部重複）

政策評価制度の改善に向けた論点（2）

テーマⅠ 評価対象

- 今年度のスキーム…
- 施策レベル（見える化改革の事業ユニットにおいて各局が設定した「施策」）
 - 各局が選定した1ユニットにおける全施策（一部でも可）

【評価対象とすべき施策について】

- 全施策を評価対象とすべきか、重要な施策を一定の基準のもと絞り込むべきか
→ 重要な施策の絞り込み基準例
 - ・ 2020年に向けた実行プラン（2016年12月～）
 - ・ 重点政策方針2019（2019年7月）
 - ・ 局ごとに重点課題を選定
- 施策の性質等を勘案して、対象外とすべき施策が存在するのではないか
→ 「テーマⅣ 既存の制度・仕組みとの関係」にも関連
- 局間・事業ユニット間で異なっている「施策」のレベル感をそろえる必要があるか
→例）都民目線で見ると、今年度のスキームでは、事業ユニットごとに「施策」のレベル感が異なるため、その施策ごとに設定される成果指標・目標のレベル感も異なり、事業ユニットにおける重要な課題が見えにくい

政策評価制度の改善に向けた論点（3）

テーマⅡ 評価手法

- 今年度のスキーム…
- 当年度、施策ごとに、成果指標・目標を設定。原則として定量的なアウトカム指標とする（設定が困難な場合は、定量的なアウトプット指標も可能）
 - 翌年度、評価実施（①成果指標の実績を基に施策の進捗状況の把握（各成果指標・施策全体で評語を設定）、②施策の分析、③今後の方向性の提示）
 - 各局の自己評価。外部有識者（政策評価分科会）は、①成果指標・目標(当年度)、②自己評価(翌年度)の妥当性に関して意見・助言

【「施策」の性質について】

- 性質の異なる施策を評価対象とする中、それらを一律の手法・周期で評価することが適切か否か
→ 例) 普及啓発系、内部管理系、公営企業系等で「施策」ごとに特徴

【成果指標・目標の設定について】

- 今年度のスキームによる設定方法で問題ないか
→ 施策ごとに、成果指標・目標を設定。原則として定量的なアウトカム指標とする（設定が困難な場合は、定量的なアウトプット指標も可能）

【評価のあり方について】

- 施策全体で評語を設定することは妥当か
→ 例) 「評語」が良く見えるよう、安易な成果指標・目標設定等を招くおそれ
- 評価結果が適切に施策の改善へフィードバックされるためにはどうすべきか

【外部有識者の関与の仕方について】

- 今年度のスキームによる関与の仕方で問題ないか
→ 各局が行った成果指標・目標の設定や自己評価に対して、施策ごとに目的を達成するに至るまでの構造・プロセスの妥当性等を確認することで、「評価過程・結果の質及び透明性の確保」

政策評価制度の改善に向けた論点（４）

テーマⅢ 評価書・情報公開

- 今年度のスキーム… ● ①政策体系シート
● ②政策評価シート（施策ごとに成果指標・目標、構成する事業、自己評価等を記載）
● 評価書は全て公開

【評価書・情報公開のあり方について】

- 今年度の評価書をベースとしてサマリーを作成すべきか、評価書自体を簡素化すべきか
 - サマリー作成の例
 - ・ 特に都民への広報が必要と考えられる評価結果についてサマリーを作成し、公表
 - 簡素化の例
 - ・ 評価書の記載事項のみ明示し、自由裁量により作成（分量も圧縮）
 - ・ 評価書の記載内容のうち、「主な取組」等の事業に係る記載は大幅に要約

テーマⅣ 既存の制度・仕組みとの関係

- 今年度のスキーム… ● 成果指標の約半数以上が各局の行政計画等と重複
● その他、実行プラン実施状況調査、事業評価等も存在

【既存の制度・仕組みとの関係のあり方について】

- 既存の制度・仕組みとの関係をどのように考えるか
 - 既存の制度・仕組みの例
 - ・ 各局の行政計画等
 - ・ 2020年に向けた実行プラン（2016年12月～）
 - ・ 事業評価
 - ・ 毎年度の予算要求